図書紹介・New publication

Review of the Gobioid Fishes of the Chagos Archipelago, Central Indian Ocean. R. Winterbottom and A. R. Emery. 1986. Royal Ontario Mus., Life Sci. Contr., (142): i-v+1-81. 15.00 CAN $.

本論文は中部インド洋上に位置する the Chagos Archipelago のハゼ亜目魚類，4 科 37 属 100 種を記載あるいはリストアップしたものである．100 種中の殆どが 1978 年から 1979 年に the Joint Services Trust of the British Armed Force の援助で行われた同地の調査に，著者らが参加した 2 ヶ月半の期間で採集されたものである．合計 79 地点で潮間帯から最大水深 48 m までの間をロテノンによって採集しているため，同地のハゼ亜目魚類相を相当な精度で反映しているものと思われる．46 種について詳細な記載を行っているが（新種記載はない），現在他の研究者により研究中の種や，すでに詳細な記載や図が既往の文献上に存在する場合はリストアップするにとどめている．ただしリストアップされたものの中で，過去に報告がなく，本論文においても図がない未同定または未記載の 8 種についてはまったく実態不明となっている．58 種については生鮮時，8 種については固定後の状態で比較的鮮明な白黒写真により図解されており，必要な場合は頭部の色素胞の分布パターンも図示されている．記載は形態に関することが主であるが採集場所（水深や地形），また一部の種では腸内容物についても記述されている．ハゼ亜目魚類の分類上重要な頭部側線系が種について図解されているが，著者らも述べているように非常に不完全なものである．日本では一般的なサイアニンによる表面染色法が普及していないためと思うが，今後この方法を英文で紹介する必要があるだろう．各種の論議ではクロヤハズハゼ *Bathygobius padangensis* (Bleeker) が *B. albopunctatus* (Valenciennes) と同種である可能性を示唆したり，同地のオトメハゼ *Valenciennea puellaris* (Tomiyama) が西部太平洋産のものとは色彩が異なることを述べるなど，本亜目魚類の分類の現状を最大限に伝えようとする著者の努力が各所に窺え，流動的な本亜目魚類の分類を理解する上で非常に有役である．

本論文は下記に申し込めば入手できる．

Royal Ontario Museum, Publication Services. 100 Queen's Park, Toronto, Canada M5S 2C6.

（瀬能　宏　Hiroshi Senou）

会記・Proceedings

昭和 61 年度第 4 回役員会

昭和 61 年 9 月 3 日（水），於東京水産大学．

出席者：岩井，上野，阿部，新井，石山，黒沼，降島，多紀，谷内，中村，藤田，松浦，丸山．

議事：1．前回記録の確認．2．報告事項．3．昭和 62 年度年会の日程と会場を決めた．4．滞納会費の督促結果を検討し，高額未納者に対する今後の処置等を協議した．5．円高による外国会員会費収入の目減り対策について検討した．6．「イワナおよびサクラマスに関する国際シンポジウム」組織委員会からの要請を検討し，後援を承諾した．7．日本科学技術情報センターによる魚類学雑誌掲載論文の英文抄録の利用を許諾した．

編集後記・Editorial notes

魚類学雑誌の一番最後の部分には『投稿規定と原稿作成上の注意』がのっています．原稿の作成前後に必ずこれを読んで下さい．『投稿規定』にあわない原稿は修正に時間がかかり，結果として著者が損をすることになります．英文論文の校正をするときには，シラブルに注意して下さい．見なれた単語でも，名詞，動詞，形容詞で単語の切れかたは違ってきます．たとえば，present は，ある・いる（形容詞）や現在・贈り物（名詞）のときは pres·ent ですが，与える・紹介する・示す（動詞）のときは pre·sent となります．このような場合には英・米人でも間違えることがあります．ハイフンによって切れた単語にはくれぐれも注意して下さい．記憶に頼らず，辞書をこまめに引くのが確実で速い方法です．

(K.M.)